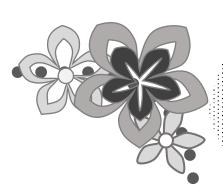


まちづくり応援補助金

活動報告書

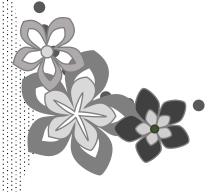




令和元年度 まちづくり応援補助金 活動報告書

	臨床心理士による連続傾聴講座 共に生きる仲間 つばさの会・・・・・・・・・1
•	学生と企業との連携による若者育成プロジェクト planning a dream・・・・・・・・・・2

- 注文をまちがえるレストラン in しょうばら 注文をまちがえるレストラン実行委員会・・・・・ 3
- 「田んぼアート」で広がる地域の輪 広島県立庄原実業高等学校 農村環境創生研究部・・4



1	団 体 名	共に生きる仲間 つばさの会
2	事 業 名	臨床心理士による連続傾聴講座
3	事 業 費	59,588 円(うち補助金:40,000 円,自主財源 19,588 円)
4	事業内容	

心の問題を抱えた方やその家族等の支援・応援を通して共生できる地域づくりを行うため、臨床心理士による「傾聴力」を高める講座を開催した。

心の問題を抱えた方を支える家族、友人知人、その他関心のある方などを対象に、一方的な講座スタイルではなく、ロールプレイ等による講座とすることで、実践的な知識と技術の習得を図った。

こころに寄り添う聴き方講座(全3回)

「基礎編」、「応用編」、「実践編」

日時:令和元年9月13日、10月18日、11月8日 各回10時から12時

場所: 庄原市役所東城支所 3 階大会議室

参加者:基礎編 29人、応用編 14人、実践編 12人(延べ66人)

5 波及効果

市役所東城支所を会場に講座を開催したが、庄原や西城など、東城地域以外の地域からの参加者もあり、3 回の講座で延べ66人の参加があった。また、10代から70代まで、幅広い年代の方の参加があり、広く市民 の方々に関心を持っていただくことができた。

今回の講座で、初めて出会った方に心を開き、聴き、語る訓練を行ったことで、参加者一人一人が他者とよりよく付き合うヒントを得られており、助け合いと共生の実る地域づくりに寄与した。

今後も、人と人との絆を結ぶきっかけとなる学びと出会いの場を設ける事で、助け合いと共生の実る地域づくりの推進が期待できる。





1	団 体 名	planning a dream
2	事 業 名	学生と企業との連携による若者育成プロジェクト
3	事 業 費	1,169,064 円(うち補助金:935,000 円,自主財源 234,000 円)
4	事業内容	

学生と地域住民の交流をとおして、庄原を支える若者世代の意識改革を行うとともに、地域の活性化を図るために、よさこいサークルを立上げ、地域イベントへの参加を行った。

対象者; 庄原市在住の 16~30 歳の男女・庄原市内の高校に通う高校生

参加者: 16名(学生は卒業や引退があるため流動的)

地域イベントへの参加

庄原よいとこ祭 8月24日・ふくのやまよさこい 9月24日 県立広島大学学園祭 10月26日 庄原青年会議所創立55周年記念式典 12月19日 さくらフェスティバル中止 相扶園春まつり中止

練習会:火曜日・水曜日 場所:県立広島大学庄原キャンパス他庄原市内各施設

5 波及効果

今回の事業をとおして、事業に関わった事業所や地域住民から学生に対する前向きな意見が上がると共に、 学生が中心となって活動したことで、学生の主体性を高め、庄原に対する意識改革にもつながった。

また、学生と地域との関りが希薄化している中で、学生と地域住民が交流を行うきっかけができ、学生が地域へ関わる体制、仕組みづくりの一助となった。今後、地域と学生が積極的に交流を図ることで、地域課題の解決への取り組みや地域の活性化に向けた活動への寄与が期待できる。

新型コロナウイルス感染症により、露出の機会は減っているが、練習会を通じて大学生と一般市民との交流を図り、地域と大学生との懸け橋となるべく活動を展開している。さらに、今後庄原市内のイベントへの積極的な参加や、全国のよさこい祭等へ参加することで、地域の活性化や庄原市の知名度の向上が期待できる。





















1	団 体 名	注文をまちがえるレストラン実行委員会
2	事 業 名	注文をまちがえるレストラン in しょうばら
3	事 業 費	641,109 円(うち補助金:528,000 円,自主財源 120,109 円,事業収入 45,000 円)

4 事業内容

認知症の人が活躍できる場所の提供や市民とのふれ合いを通して、認知症の啓発を図り、「認知症になっても安心して暮らせる町づくり」の一歩として、1日限定のレストランを開催した。場所は国営備北丘陵公園内の「レストランふらり」で、店名は「注文をまちがえてもおいしい店 shobara」とした。特別企画の3種類の限定セットメニューを用意し開催チラシを配布したところ、市の内外から72名の応募があった。令和元年9月20日にプレオープン、その際に浮き彫りとなった問題点を修正して同年10月18日に本開催をした。本番では抽選で選ばれた客45名が2部に分かれて来店した。認知症の状態にある高齢者7名はロゴ入りユニフォームを着て注文受けから配膳まで行い、賑やかに来店客と交流した。

〈注文をまちがえてもおいしい店 shobara〉

日 時: 令和元年10月18日 場 所: 国営備北丘陵公園 "レストランふらり"

参加者: 45 名(応募者:72 名、当選者:48 名、当日欠席 3 名)

5 波及効果

本企画の公表段階より、市民から沢山の問い合わせがあった。マスコミにも複数回取り上げられ、新聞やテレビによる「認知症を排除しない社会づくり」の啓発に繋がった。医師・学生・商店主など多職種にわたる市民が実行委員会を結成したこと、15 社にのぼる企業からの協賛やレストランふらりの多大な協力など、庄原を認知症(の人)に優しい町にしたいという市民の意志が連携を生んだ。当日、給仕した認知症の方々と来店客とのコミュニケーションも活発で、店内は認知症の方が社会の一員として活躍する姿を自然にサポートするという雰囲気で満たされた。アンケートでは大半の参加者から企画やレストランについて高評価をいただき、認知症の方が社会参加する場面として、この企画の継続開催を望む声が多かった。また、市外からも開催方法についての問い合わせを多数いただいた。今回参加できなかった市民から次回の開催予定を尋ねられるなど、認知症に対する市民の関心の高さが伺えた。今回の企画が認知症への理解と寛容な社会の実現を目指すきっかけ作りだけでなく、「里山の駅庄原ふらり」が素晴らしい施設であることを伝えることができ、本市の目指す「活気あるまちづくり」に貢献できたと総括する。













1	団 体 名	広島県立庄原実業高等学校
2	事 業 名	「田んぼアート」で広がる地域の輪
3	事 業 費	197,587 円(うち補助金:116,760 円,自主財源 80,827 円)
4	事業内容	

地域と連携し休耕田の活用をとおして、自然豊かな庄原市の魅力を PR するとともに、地域の活性化に貢献するため、「田んぼアート」を実施した。特に田んぼアート完成イベントに力を入れ、補助金を活用し、熱気球による田んぼアート見学を行うための準備を行った。

① イラストの決定

地域の小学生からデザインのアイデアを募集し、デザインの決定を行った。

② 田んぼアートの実施

地元企業や地域の学生等と連携し、水田の準備・田植え等を行った。

③ 田んぼアート完成イベントの実施

日 時:令和元年7月20日,21日(21日は台風の影響により中止)

参加者:約80名

内 容:高所作業車による田んぼアートの見学

熱気球による田んぼアート見学(21日)※台風により中止

5 波及効果

今年度は、小学生との交流をさらに進めるため、小学校で田んぼアートや耕作放棄地についての説明会の開催、完成イベントで小学生が学習した耕作放棄地についてのアンケート調査や発表を行ったことにより、耕作放棄地の問題や稲作の魅力の発信につながった。

また、悪天候により熱気球を飛ばすことはできなかったが、熱気球の係留を計画したことにより、熱気球を 飛ばすためのノウハウを蓄積することができ、参加した生徒たちのモチベーションアップにつながった。

台風のため2日目の完成イベントが中止となったが、1日目の来場者は昨年以上であり、より多くの人に来場していただき、田んぼアートをとおして自然豊かな庄原市の魅力を PR し、地域の活性化に寄与することができた。



イラストの測量ポイントを打つ測量



庄原市立板橋小学校の4年生と田植え



田んぼアート完成イベント







田んぼアートのわらを使っての「わらアート」